

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果 【指標】	具体的取組に関する成果や課題
教科指導	<p>授業規律を確立し、基礎学力を伸長させる仕組を構築します。</p> <p>(1) 授業規律確立のため、イエローカード制など、全員で組織的な取組を始めます。</p> <p>(2) 授業改善を継続的に行うため、小グループでの授業公開、研究協議を進めます。</p> <p>(3) 朝の5分間トレーニングのバージョンアップに取り組みます。</p>	<p>(1) イエローカード制については開始して3年になるが、一定の効果が得られている。 【70%】 ○授業規律が良くなった 80% ○良くなっていない 20%</p> <p>(2) 9月の職員会議で班編成を行い、異教科から成る教員の班を編成し授業公開とその後の協議実施、結果を職員会議で報告した。 【60%】 ○効果があった 72% ○効果なかった 28%</p> <p>(3) 生徒の実態に合わせた改善を加えながら実施した。 【70%】 ○改善された 67% ○改善されなかった 33%</p>	<p>授業規律については昨年度の教職員プラス評価62%よりも好評価であり、指標を大きく上回った。イエローカード制の効果のあらわれの一端といえる。</p> <p>グループでの授業公開、研究協議とも、昨年度51%より大きく上昇し効果があったとしている教員が多く、指標も上回った。さらに修正を加えることで、より良い効果が期待できる。</p> <p>朝トレについては、負担はあるものの、昨年度評価56%より上昇し、一昨年に続きポイントアップとなっていて、その効果を評価する意見が多かった。生徒の学習環境としても定着してきていると考える。内容については、今後も生徒の実態を見ながら検討を続けていくことが必要である。</p>
基本的な生活習慣の確立	<p>基本的な生活習慣を確立し、生徒のコミュニケーション能力を伸長させます。</p> <p>(1) 自転車通学マナーの向上や服装指導に年間を通して取り組みます。</p> <p>(2) 部単位やクラス単位での地域奉仕活動に取り組みます。</p> <p>(3) クラスでの仲間づくりを深めます。</p>	<p>(1) 每学期全職員による登校指導を実施した。一年生対象の自転車運転の実技講習会を行った。 【60%】 ○通学マナー取組できた 57% ○できなかった 43% □服装指導取組できた 81% □できなかった 19%</p> <p>(2) 新入生による学校周辺地域の清掃活動を実施し、環境整美に資すると同時に、地域や周辺の状況を新入生が一早く把握することに役立った。</p> <p>(3) 中央祭やクラスマッチなどを機に仲間づくりを深める。 【70%】 ○仲間づくりができた 91% ○できなかった 19%</p>	<p>自転車通学マナーについては、過去に本校で重大な自転車交通事故が発生しているため、今後も継続的な粘り強い指導が必要である。また、全教職員による登下校指導の強化を図る必要がある。特に一年生については、慣れない通学路での事故を未然に防ぐため、交通安全や自転車通学のための安全教室を実施しており、今後もより効果の高い方法を探りながら取組を進める必要がある。</p> <p>学校環境デーに合わせて新入生生徒による奉仕活動や地域貢献活動を実施し、通学路や学校周辺の状況を把握して貰うことができた。加えてクラスの仲間づくりを深めるためにも大いに役立った。その仲間づくりについては、教職員の好評価が昨年の71%よりも飛躍的に伸び、指標を大きく上回った。</p>

	(4) 生徒の共通理解を深めるため、学年集会を定期的に開催します。	(4) 定期的ではないが、各学年毎に実施した。 【70%】 ○できた 58% ○できなかった 42%	学年集会の実施については、昨年度の好評価63%と比較して若干減少したが、生徒に対する共通理解を深める上で大切な機会であり、時間運用の効率性が課題となった形である。
組織力の向上	<p>学校の課題を共有し、全職員で組織的な取組が出来る集団づくりを進めます。</p> <p>(1) 教職員の共通理解や協働による取組と課外活動等の指導の工夫により、総勤務時間の縮減を図ります。</p> <p>(2) 四中工の未来を語る会等をはじめ、教職員による交流会を開催します。</p> <p>(3) 大規模災害を想定し、地域と連携した防災教育を進めます。</p> <p>(4) 教育活動全般の刷新を進めます。</p>	<p>(1) 全職員の共通理解と協働による組織が行われている。 【60%】 ○取組が行われている 75% ○行われていない 25%</p> <p>(2) 教職員の主体性を尊重した交流の機会を設け、本校の在り方等について意見交換を行い、共通理解を深めることを目指したが、十分な取組には至らなかった。</p> <p>(3) 地域の防災に係る連携体制をとることができ、地域防災マニュアルの作成に至った。</p> <p>(4) これまでの取組における見直しや改善を意識しながら、実践可能なところから進めることができた。</p>	<p>教育活動を学校全体の取組として捉え、教職員の共通理解と協働のもとに進めることができている。個別対応で可能な部分も多いが、総じて全職員で学校運営を実践するという意思を醸成していきたい</p> <p>教職員間の交流については、「四中工の未来を語る会」など職員交流や意見交換の場をつくる流れはあるが、今年度については十分な実践ができなかったため、来年度はその反省を踏まえた活動を図っていききたい。</p> <p>防災については、地域との意見交換や情報交換をとおして、具体的な連携づくりができている。</p> <p>また学校の伝統とは別に、慣習的に成されてきたことで見直しが必要なところは、今後も検討していく必要がある。</p>

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> 工業各科の特色を活かした取組に対する強い意欲と意思、実行力と実績がみられる。 クラブ活動の取組の成果を十分に活かした教育活動全体の活性化が顕著にみられる。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 全体的、組織横断的な取組に対するより一層の積極的姿勢が求められる。 持続可能な取組の構築が求められる。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数>	学校関係者評価委員会として2回開催し、加えて委員の方々に対して随時授業を公開し、学校の様子や生徒の実態を知っていただいた。
実施内容	<ul style="list-style-type: none">○第1回学校関係者評価委員会<ul style="list-style-type: none">・学校関係者評価委員5名の紹介と学校関係者評価実施の目的と主旨を説明。・学校の概要を特に進路指導及び生徒指導の観点から説明。・学校の現状と現在抱えている課題について、昨年度の学校評価報告書をもとに説明し、委員の方の意見をいただく。・平成27年度学校が重点的に取り組む内容について説明し、委員の方の意見をいただく。○第2回学校関係者評価委員会<ul style="list-style-type: none">・委員会のメンバーに加えて専門学科の科長、学年主任、分掌主任が出席し、拡大委員会の形式で実施。・平成27年度の各科、各分掌の取り組んだ内容を説明し、委員の方の意見をいただく。・平成27年度学校が行った自己評価を説明し、意見をいただく。・平成28年度に向けて、改善点を協議、検討する。

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・企業が生徒に求めるものは、コミュニケーション力と身だしなみ等規律遵守の意識であり、その醸成を意図した教育的取組が必要である。・自転車の無灯通学への対策と、通学時の交通事故防止や通学危険箇所の改善のため、通学路のより一層の整備を要望したい。・生徒指導等においては、生徒の立場に立った生徒の目線での指導が大切であり、そのための教職員研修も必要である・社会に出てからでは遅い、高校時代にしか育てられないことがあり、それを見逃さないように取り組んで欲しい。・学校保健委員会などを軸に、学校全体で生徒の健康や保健・衛生管理等により一層力を注いで貰いたい。・授業公開をとおして見えてきた教室の学習環境を改善するため、物理的問題や教室スペースの問題に対応していく必要がある。・学科を越えた全教員からの声掛けや人間的成長を意図した面接指導は、生徒たちにとって大きな励ましとなった。・ここ数年増加傾向にある女子生徒の学校生活に支障が起きないように配慮願いたい。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<p>全職員による学校全体の取組や成果に対する達成感とやりがいを全員で共感し、さらにより高い充実感を求めていく。</p> <ul style="list-style-type: none">・良好な取組として認識されているイエローカード制の効果を再認識し、指導の見える化をより一層生徒に示していきたい。・朝トレの取組が本格的に始まって以来4年が経ち、多くの支持が得られている反面見えてきた課題もあり柔軟な対応が求められている。この取組は生徒の学力定着を担う重要な方策のひとつであり、今後もより良い改善を進めていく。・生徒の学力保障のため、D3補習の今後の在り方やD2補習へのレベルアップを検討するなど、取組の継続方法を探っていく。・今年度1学年において初めて実施した早い段階でのキャリア教育の充実を図る企画を今後も継続し、その改善を図っていく。・地域に根ざした学校づくりに資するため、生徒の教育活動やその成果を広く学校の外に発信し、地域に必要とされる学校、地域に愛される学校、地域のニーズに応えられる学校づくりをめざし、地域貢献をとおして生徒が主体的な取組を行うための意欲を発揮する仕組を構築していく。